

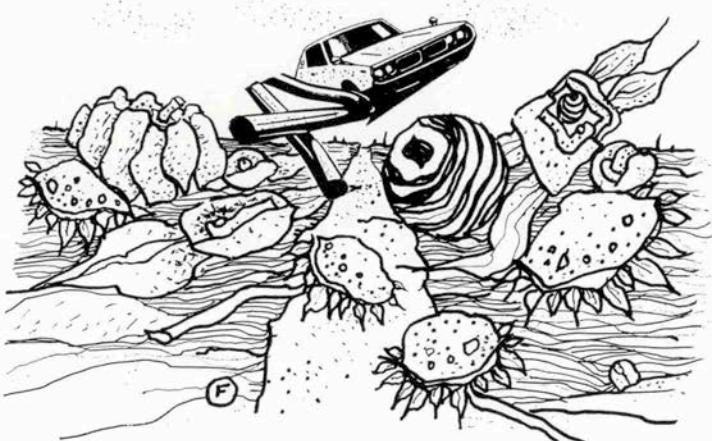


鄭 承博
^作家▼

生涯ある芋畑の

今年も減反政策にはかかわりなく米の大豊作らしい。ここ淡路島の水田にも重そうな稲穂が深々と垂れてきた。私はこの時期になると、いつも戦前戦後の食糧事情が極度に緊迫した時代を思い出す。米などは「銀しやり」とかいって、とても貧乏人の口には入らなかつた。終戦になつてから間もなくである。秋にはなつたが、町の中であ

隨想——秋に想う



カット／藤原 向意

つとしていたのでは野菜のひと株も買えない。みなと同じように私も自転車を押して買い出しに出かけた。なかなか買えない。知人か縁者でも訪ねてゆけば別だが、疎開で都会から流れて來た見ず知らずの者に、何一つ売つてくれるはずもなかつた。

農村地帯をさ迷い歩いて疲れ切ったときである。とある山麓で一人芋を掘っている老人を見つけたここぞとばかりに駆け寄つたが相変わらずこの老人も相手にしてくれない。

「もうとっくに予約済みだ。町から親戚や知り合いがひつきりなしにやつてくる」

とはつきり言い切つてしまふ。私は途方にくれた。ねばりにねばつた揚げ句、やつと夕刻になつてからくず芋を四、五キロ売つてもらった。しかしこれがきつかけである。その翌年も、そしてまたその翌年の秋も、この畑を訪ねて行つた。

もう芋とは縁が切れてから三十年に近い。その間にこの畑も幾多の変遷を遂げてきた。あるときは茶畑に、またあるときはみかんの木が植わっているのを見たことがある。つい先年、とうとうこの辺一帯は宅地に造成された。いまは近代的な住宅団地である。

さつま芋なんかはもう相手にさ

れなくなつたので茶を植えたので

あらう。これも大産地に押されて
ものにならない。年数をかけて育
てたみかんも、木がやつと大きくなつた頃には、もう値段が暴落し

ていた。ついにはブルトーザーに
突きならされて宅地にされたに違
いない。すでにどの家にも車庫ま

で備えた高級住宅が並んでいる。

ごく最近もこの近くを通りかか

つた。私はいまだに飢えをしのい

だあのときの芋薪がはつきり浮ん

でくる。ちょうど老人と初めて逢

った辺りには洋風の家が建つてい

た。前の花壇にはいろいろな花も

咲いている。もうここがもとの芋

薪に戻ることは永遠にあるまいと

思いながら眺めた。

さつま芋以外には何を作つても
大成しなかつた煙である。役に立

たなくなつたものは、しょせん潰

される運命かも知れない。今年も

近くの水田では豊作の稲穂が秋風

に波を打つていた。減反の憂き目

に相いながらも、やはり「銀しやり」である。近年めつきり白髪が増え、頭の冴えもさっぱり悪くなつた自分を、思わず振り返らずにはいられなかつた。



じこともあつて仲がよく男女の関係を噂されるときもあつた。「宏

と一緒に風呂に入つてなあ」と河野さんはうれしそうに言つたこと

がある。鷺見さんも自分の結婚や

両親のことなどをあれこれ河野さんに打ち明けていた。彼女の父親

が他の女と暮らしていく年がいく

もので籍を抜いてほしいと言つてき

ても母親は応じないでいた。河野

さんはそんな鷺見さんをよく理解

した上で時として頼まれて父親の役目を演じることがあつたのだろう。

私はそれを知つていて、「鷺

見さんが休むと、きまつて先生も休むやないか」などと言つてから

かつた。すると河野さんはあわてて自慢の一人息子と野球を行つた

とか奥さんが親戚に行つたとか理由を上げて抗弁した。私と河野さ

んは年が十才違つた。そして山ち

ゃんとも十才離れていたが、年少

の彼がいつも気を使つていて。私

の知らない事情もよく知つてい

て、私の不用意な言葉を叱つた。

酒も私が一番弱かった。三人で二升を開けた。「鷺見さん、はよ再

婚しなあかんで」と私は酔いに任せて言つた。「そうやなあ」鷺見

さんは蜜柑をむきながら曖昧に笑

う。宏を追いかけて山ちゃんが山の斜面を登つていく。「今ひとり

身やから気つけや」と河野さんが捨台詞を残して後を追う。「最初

蜜柑狩

秋吉 好
（作家）

蜜柑山の中腹で鷺見さんの手作りの弁当をひらき酒を呑む。団体客が来て、下の広場で野の宴を始めた。声は聞こえなかつたが、透き通つた空気の底で鍋をつつく様まで手にとるようになかつた。

秋の空は高く海の色も澄み、爽やかな風に心が洗われ、気の掛けない仲間の細やかな酒宴に気持よく酔うことができた。鷺見さんとは半年ぶりだった。彼女は同じ職場にいた夫が急病死した後に引き続ぎ勤めるようになつた。私は葬式の日に初めて鷺見さんに会つた。

目鼻立ちのはつきりしたふくよかな美人だった。まだ赤坊の宏を抱いていた。河野さんとは仕事が同

で懲りた」と鷺見さんは言う。「死んだ人のことは何も言わんけど、これで結構今は気楽なんよ」私はそんな話をしながら寝たらしく、次に目を開けると、私の肩をゆする鷺見さんの顔が目の前にあった。陽は山影に入り肌寒かった。

「お母ちゃん、こっちへおいで」といつの間にか可愛い騎士が来ていて鷺見さんの手を引張った。

私はふらつきながら立ち上がり、「宏、おっちゃん」と相撲しようやと言った。宏は私をにらんでいたが、やにわに小さな身体をぶつけてきた。私はぐんぐん真剣に押してくる宏を受けとめながら、生まてくる子供がこんな男の子ならよいなあと思った。

想像力のある人

奥野 忠昭

（作家）



私のクラスに今、教育実習生が来ているが、つい先日から、子どもたちの遠足を計画、準備している。行く先を決めたり、どのコースを歩かせ、どこで食事をさせ、

どこで遊ばせるのかなど考えたりしている。さらに電鉄会社とは電車の交渉を、バス会社とはバスの交渉を。下見見聞やら、プリント刷りやら、子どもたちへの説明やらと汗だくで取り組んでいる。そして「先生、遠足とはこんなにも多くの準備と、こんなにも多くの注意が必要だったなんて、初めて知りました」と感慨を漏らす。

母親にお弁当を作つてもらい、集合場所に集まるとすいと電車が来て、行く先まで運んでくれ、適当に遊んで帰ってきたという経験しか持ち合わせない実習生たちが、遠足なんてたいした準備もなしにすいと行けるものだと思つても無理からぬ話だが、実際にそれを準備する側にまわると思つてもみなかつた色んなこと（たとえばどこにトイレがあるのかといふことさえちゃんと把握しておかねばならないことなど）を知つて驚いてしまう。

昨日、「小説の読みかた、書きかた」という題で、ある会合で話をしたのであるが、ただの小一時間ほどの話でも、話をするとなると私はこの話の準備のため、五日間ほど夜の時間を費やすねばならなかつた。あいうことを話そうかと苦心慚したのである。

ほとんどの人は熱心に聞いてく

れたがなかには途中からいねむりをする人もいた。こういう人を見ると、自分の話のへたさかげんへの自責よりも、やはりその人に腹がたつ。この人は私の話のつまらなさには思いを馳せるだろうが、の話をするために私がどんなに苦労したかなどとは決して考えはないだろう。

フランスでは親切な人のことを想像力のある人と呼ぶそうだ。親切な人とはまず他人の心を想像できる人だという意味だろう。

もし、私の話のむこうに、もつといろんなことを想像してもらえばもう少し耳をかたむけてもらえたのではないかと自分の力量をさておいて思つてしまふ。

私は今、他人を読む、環境を読むということを考えている。どのようにすれば他人を読み、環境が読めるのか。

それにいまのところ、そのものをよく観察し、そうなるまでの過程に思いを馳せ、自分の体験と結びつけ、直接話を聞いたり、調べたりするというほかいい方法は見つかってはいない。

ただ、できるならなんとか、私もまた想像力のある人になりたい。ものだと日々願つてゐる。

□ある集いその足あと



率直な意見を述べ、絵本を1冊ずつ評価していく。

鴨の子文庫 絵本の勉強会

大月ルリ子

△鴨の子文庫主宰▽

お母さん達の集まりに行って、子どもの読書について話をするときまつて、「どんな本がいいかわからない」と皆さん仰言います。ひとくちに「こんな本がいい本だ」ということができたらことは簡単です。けれどもそれがわかるようになるためには、沢山の本を読み、子どもの反応をみたりしながら、徐々に、でも確実に評価眼を身につけていくしかありません。それ

が、自宅の一部にある鴨の子文庫にグループを合併して、場所も私移してはじめたものです。それ以来、メンバーにもその時どきで変動がありました。はじめて図書館の方達も多かったのですが、場所が個人の家であることや、ウイークデーの午前中という時間的な問題もあって、少しずつ、その数が減っていきました。昨今は子どもの本に興味をもつ若い人も多く、家庭文庫をやっている人やそれを手伝っている人以外にも主婦や独身女性（残念ながら男子禁制というわけではないのに男性の参加は今のところありません）が加わって、現在の有力な構成メンバーになっています。

もともと先に述べたふたつの集まりでは、それ迄に児童文学の各分野をひと通り勉強していたのですが、五年前の合併をきっかけに、絵本からやり直して、きめこまかくひとつひとつの本について話し

をするためにこの会はあるといつていいでしよう。

実際には五年前に二つのグループがいつしょになってきたのが今、のグループです。芦屋市立図書館でそれ迄五年程続いていた主に図書館関係者で構成されていた児童文学研究会と、同じく芦屋の市民センター主催の成人学級から派生した主婦の集まりである「童話の自宅」を合併して、場所も私移してはじめたものです。

それ以来、メンバーにもその時どきで変動がありました。はじめて図書館の方達も多かったのですが、場所が個人の家であることや、ウイークデーの午前中という時間的な問題もあって、少しずつ、その数が減っていきました。昨今は子どもの本に興味をもつ若い人も多く、家庭文庫をやっている人やそれを手伝っている人以外にも主婦や独身女性（残念ながら男子禁制というわけではないのに男性の参加は今のところありません）が加わって、現在の有力な構成メンバーになっています。

ま、歩みはのろくとも、私達の夢のまた夢は、いつの日にか、「これだけは、どんな子どももその成長の途上で出会つておくといですよ」と自信をもつてすすめられる絵本のリストを作成し、自費出版でも何でもいいから出版し、世の迷える母親達に供したい、ということです。皆、子どもの本の世界に魅せられ、絵と文学というふたつの芸術でもつくりあげらるべきひとつの絵本という世界に、つきせぬよろこびを見出し得るからこそ、せつせと本屋さんへ行ったの立読みに精を出し、自分の意見を書きつけたノートを抱いていそいそと山を登つてこられるのだ

刀劍 古美術



短刀、拵つき
銘 兼貞(新刀)
刃渡 21.4cm(7寸強)
刃紋瓦の目
拵/変塗 総金具銀地
目貫這龍図銀地
価格 ¥450,000

鑑定 買入 刀劍 研磨 その他工作
一ヵ月仕上 是非ご用命下さい。
お支払いに便利なローンをご利用下さい。

刀 剣 古 美 術
元町 美術

神戸市生田区元町通6丁目25番地

TEL 078-351-0081

オリエンタル レディスクラブ

会員募集中



年会費：お一人 5,000円

割引：オリエンタルホテル、六甲オリエンタルホテル
での宿泊、飲食の際サービス料10%割引いたします。
その他いろいろの特典がございます。

特別催：随時、会員のための特別催しをいたします。

お問い合わせ

オリエンタルレディスクラブ事務局

神戸市生田区京町25 オリエンタルホテル内

☎ (078)331-8111

■ すいそう ■ 昔の昔のはなし ■

さらば

聚楽館

竹中 郁 △詩人▽

いよいよ聚楽館が取りこわされる。六十年にわたって神戸市民が親しんできた建物と名称とが消え去るのだ。現在の建物は昭和七年くらいに出来た二代目で、初代の建物が開場したのは大正二年か三年かだった。

私は一九〇四年（明治三十七年）生れだが、今の新開地の通りが整備されて、東川崎町から松本通りまで一直線になつたばかりの光景が眼にうかんでくる。もともと、旧湊川が流れていたのを、水は会下山の下をトンネルで長田神社前へ流してその跡を埋めたて、両側の土堤をならして新しく土地面積を拓いたものだ。それゆえか、われわれは「湊川新聞地」という名称が正式なのにかかわらず「ドテへ行こう」とか「ドテの活動写真をみに」などといった。

聚楽館のできたころは、もう新聞地という名称が定着していて「ドテ」の勢力はうすぐれていた。明治と大正との境目ころ、今のガス会社の四辻から川上へ向つて歩くと、左側に湊座とか松本座、朝日館、錦座、日本館、帝国館と芝居や映画を掛ける小屋（つまりシアター）がならんでいた。錦座が一番新しく、出来たてのとき二階の軒のぐるりに玉乗りクラウンの点滅電飾をつけていた。それらのシアターが出来るまで、川砂の山の盛上りがあちこちにあって、私は尻をこすつてになり台をこなること遊んだ記憶がある。そこらに並木の大きな松があつた記憶は、どうも私にはない。右側には骨組の大ぶりな相生座があつて、のちに天中軒雲右エ門の正雪張りの長髪をふりたてて唸るのをここできいたが、日本館や帝国館の

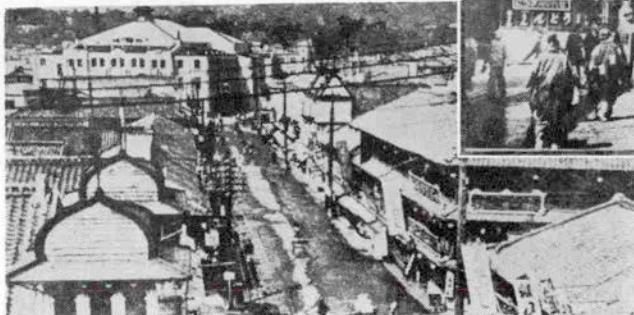
建つ前の空地に立つと、相生座にたつぱりと西日の当つていた姿も眼底にのこしている。だからつまり、相生座が先ず相生町（神戸駅前近くの町名だ）から移ってきてそのあと、楠公社内にあつた水族館を移築して帝国館ができ、そのとなりの日本館と建つたのだろう。

聚楽と名附けたのは誰か分らないが、川を埋めて土地を拓いた会社とは別の会社が、当時の田村市郎や、直木政之介、小曾根一郎、滝川辨三らの実業家によって設立されて、聚楽館は目標を東京帝劇にしほつて出立した。東京の帝劇（今の帝劇は場所は同じだが、あの建築は二代目だ）の小型を目指したにしても、いずれお手本は歐米のどこかのをさがして、写したにちがいない。舞台のタツバが高く、イオニア流のフレーム飾り。舞台ばなの両脇のロオジユなど十九世紀ヨーロッパ風劇場そつくりだった。舞台かぶりつきの真上には南薰造（当時文展の人気作家で岡山県人）の油絵具で描いた西洋天女が雲上を翔んでいる四枚の絵がアーチ形ペネルにはめ込まれ、二階と平場の一等席はあけぼの色の布張りだった。劇場内部の壁はうすみどりで統一されていたから、その要所々々に金箔張りが使われたのは、いつそう華麗な気分をそそつた。

第一次大戦で連合国側に立った日本は、しこたまあぶく銭を儲けた。聚楽館もその余波の一つなのだ。鉄筋コンクリートは大正十二年以後普及したが、当時は煉瓦積み鉄骨梁が普通だ。三階建洗い出しセメント化粧。外観は質素といった方が当つていよう。とにかく千二百人ぐ

らいの収容力とみえたが、小じんまりと見よい聞きよい劇場だった。こけら落しには東京帝劇専属の先代尾上梅幸、先代松本幸四郎その他花形の一座で幕を開けた。中

まだ舗装もされていない新開地
聚楽館が演劇場として開館した
ばかりの頃（大正2年）



にぎわいをみせる新開地
中央遠くにみえるのが聚楽館
(昭和10年)

でも「茨木」が出て、梅幸の扮した綱の伯母の演技のすごみに少年の私はふるえ上った。こわかったのだ。

二階正面の外側には電車通りに臨んで矩形の食堂があり、壁には西陣織が張ってあった。豊公ごのみの五三桐の金糸で織出しの、つまり聚楽の名に因んだ凝りようだ。その卓で幕の内へんとうやその他をたべさせた。

一階の西側にたっぷり取った廊下は、西庭へそのまま出られるようなドア窓が大きくとつてあって、一隅にビヤスタンド、床面には丸い卓が七、八個といった具合。

エルマンとかクリイラーとか、ハイフェッツとか、世界一流の提琴家、アンナ・パブロワなどの舞踊といったときは、神戸在住の欧米人が着飾つて来歩いて、この西の廊下を一ぱいにした。ここで際立っていたのは、美男美女そろいのエリオン家の五人兄妹、在留外国人フットボールで鳴らしたオリバー・エバンスの息子、フランスのオーギュスト・ルード領事とか美髪のチエックとか。いつの間にか私は見覚えてしまった。それほど神戸という土地はせまい世間だったともいえるわけだ。エリオン兄妹の末妹は、八十歳をこしてまだ健在。北野天神の東の異人館を維持しているが、近ごろの日本人は行儀わるくなつたと、例の異人館さわぎについてこぼしている。私はいつかこの人から電話をもらって、四十数分の長電話にへたばつたことがある。あちらは孤独のうさばらし癖から平気らしく、実に見事な日本語で延々とつづく。弟さんが尿毒症で亡くなつた話のくだりで「うちではたとえ兄弟でも、おへそから下の話はしません。それがもとで、つい弟の病気を見のがしました。今から思うと無念です」と、ちよつと日本人でも真似られぬいまわし。聚楽館であんたら五人兄弟は花でしたね、といつておだてると、まあ嬉しい、あんた見ていてくれはつたの、とくる。

ここまで書いて、気がついた。私なんかが書くよりも、この劇場を作った人の息子さんが御影で健在だ、詳しいことはあの人人に限る。その名は武岡四郎。お父さんは武岡豊太といって、聚楽館の専務か社長だった。

岐路に立つ

田 島 博

△神戸市外国语大学教授▽

神戸市立外事専門学校は、昭和二十一年六月の創立からちょうど一年後、当初の大開通りから、新開地、三宮をへだてた現在の小野柄小学校の校舎に移転した。無我夢中ですごしたもの、恐ろしくあわただしい一年間であった。

校舎の移転だけでも、設立間もない学校にとつては難儀なことだが、産みの親であった中井一夫市長が二月に退陣して小寺謙吉氏が新市長に就任し、寄る辺ない孤児のような境涯に置かれてしまった。そこへ、いわゆる六三制による学制改革の波が押しよせてきたのである。小学校六年、中・高校各三年、大学四年という新制度のうちには、専門学校の占める位置がない。大学に昇格するか、それができなければ、廃校よりほかに道がないわけである、なんともきびしい選択を迫られたものである。殊に神戸外專は、発足後数カ月、生徒は一年生がいるだけ、教員の数も十数名にすぎず、校舎もまだ仮りのもので、最終的にはどこに落ちつくことになるのか、目途も立っていない。専門学校として完成させるだけが精々で、大學昇格など、誰の目にも無理な相談としか映らなかつた。だが、その無理を敢て通さなければ廃校が待つている。金田近二校長をはじめ、教職員、生徒は、まさに存亡をかけた昇格運動に立ちあがつた。文字通り東奔西走する金田校長の姿には頭のさがる思いだつたが、生徒た

ちの熱意にも胸を打たれた。

その頃、生徒の数は二百五、六十人で、年令は十七歳から三十三歳までのひらきがあり、復員軍人もかなりいた。軍服を着ている者、毛布を改造したえたいの知れない外套をまとつてゐる者、服装はまちまちで、押しなげに召集されて兵卒だったことを知ると「このあいだ争中に召集されて兵卒だったことを知ると「このあいだまでは、先生が私に敬礼するほうだったんですね」など感慨深げにいう元将校の生徒もいて、教師としては、さっぱり気勢があがらなかつた。そんなことをいう生徒のいる教室以外の教室でも、私と同年輩の生徒が必ず何人かおり、心許ないかぎりだつた。

ところが、昇格運動がはじまるといふと、様子が一変した。生徒たちは、市の理事者、市会の有力議員を個別に訪問し、街頭に出て、市会に訴えるための署名を集めた。運動が高まるにつれて、生徒と教職員のあいだに連帯感がつよまり、親密の度が急速に増した。私も、教室では以前のような気おくれがなくなり、生徒の信頼をあつめているような感じがして、快適な授業ができるようになつた。この時の思いは、私には貴重なもので、この生徒たちにおぼえた身近かな親しみの深かさは、爾後三十余年、外專、外大を通じてどの年度の学生に感じるよりも大きさい。小野柄校舎に移つた翌年の一月には、われわれの努



G.I.にも呼びかけたり熾烈だった昇格運動。右は長田付近で。

力がみのって、市側の方針は、大学昇格の方向にほぼまつっていた。その間、市会の内外で援助してくれた人々の好意は、身にしみてありがたかった。とりわけ、昇格準備のために市が設けた制度改革調査会の委員飛田昌久市会議員の尽力にはひたすら感謝するよりほかはない。

さらに一年後の昭和二十四年、現学舎に移って、神戸市外国语大学が発足したのであるが、昇格運動に熱意をもやしていた外専第一回生の卒業式は、移転の直前、小野柄校舎でおこなわれた。引きつき外大に進学した十数名をのぞいて、大多数の生徒は、移転先の学舎も、そこで開学した大学も見ることなく社会に出ていったわけだ。外専三年間将校服で押し通し、昇格運動の先頭に立つていた秋宗久夫君もその一人である。現在滝川高校で教鞭をとっているが、卒業以来引きつづき同窓会会长をつとめ、外大の卒業式、その他の行事には必ず顔を見せる。当時の情熱は、いまだにおどえていないようだ。

機関銃のような早口の英語で私をやりこめていた小野和正君は、いま第一中央汽船の営業部長で、先日東京で出合ったが、相変わらずの早口でまくし立てられた。校庭でよく模型飛行機を飛ばしていたロシア語科の関川栄一郎君は、いまや著名な航空評論家で、飛行機に関連した事件があるたびに、テレビで顔が見られる。杉本竜太郎君は、外専卒業後阪大の英文科に入學し、故竹友藻風先生に師事していた。同先生には、私も学生の頃教えを受けおり、杉本君は、いわば私の相弟子になつたわけだ。阪大卒業後は、同大学の助手に残り、失明された竹友先生の手足となつてお世話をしていたが、後に大阪市大教授となり、現在は大阪府立女子大教授である。赤松光雄君は、外専二年生のとき、高専英語弁論大会で近畿の第一位となり創立後日の浅い外専のために大いに気を吐いてくれた。現在は母校外大の教授である。

そのほか、私にとって最も印象深い外専第一回生で、各界の第一線に活躍している者は大勢いる。彼らは、いま脂の乗りきつた年令なのである。

大きな利息が何より魅力

住友の貸付信託

- 元金保証
- 元金保証
- お預け入れは1万円単位
- 募集締め切り日（毎月20日）より1年以上たっていれば期間に応じた利回りで中途換金もできます。

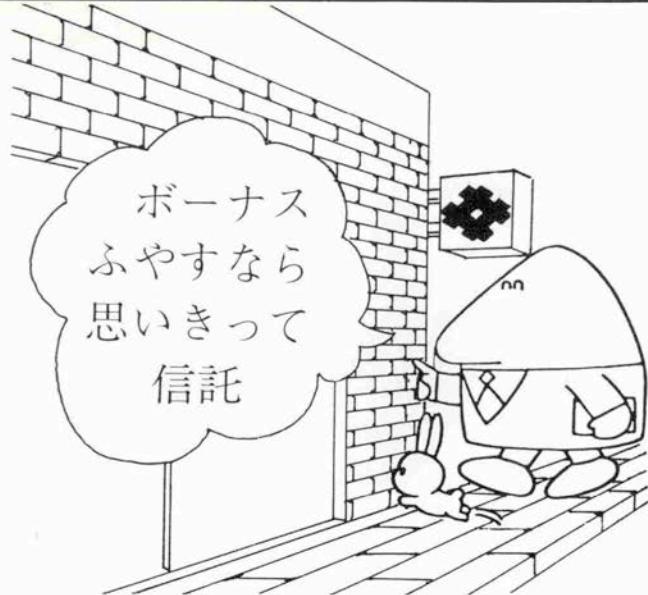
積立て貯蓄の決定版

虹の通帳 積立てコース

- お預け入れは1回5,000円からいくらでも
- 期間は5年以上で、自由に決められ満期日にまとめて受け取れます。
- ボーナスで積み増しをしたり、積み立てを休んだり、いつでも予算に応じて自由にお預け入れができます。

お近くの銀行、郵便局から
も申し込みます

専用の申込用紙をお送りしますのでご請求下さい。



「普通預金、定期預金などの預金」「保護金庫」「不動産の売買の仲介」「住宅ローンなども取扱っておりますのでお気軽にご利用ください。

 **住友信託銀行**
神戸支店

〒650
神戸市生田区元町1丁目 大丸西向い

☎ 078 (321) 1131(大代表)

下水の再利用

諸岡 博熊

△神戸市企画局参事▽

都市における水問題は次第に厳

しさを増してきている。需要の増

大につれて、水資源開発の困難さが加わって長期的にみると絶対的な不足が予測されている。今年のように降雨の少ないとき節水のP.Rや時間給水で切り抜けたとしても生活用水、工業用水などの水需要には、将来不安がみられる。

そこで注目されるのが、下水の再生利用であつて、海外では、数十年の実績がありながら、わが国では未だに消極的である。それは下水再生利用がなお技術開発の途上にあつて、コスト的にも水質的にも問題があるからである。とはいへ、わが国にこの技術を導入すると①水源が手近に得られるため導水費が安い、②水量が豊富で安定している、③再生処理費が一般的にいえばあまりかからないことなどの利点がある。したがつて、再利用を促進するために、再生処理と再生水利用の技術開発に努めて、水質との関係を明確にして、コストを下げていく必要がある。

一方排水、排泥処理など再生処理における二次公害、雑用水道における公衆衛生、とくに、ウイルス及びクロスコネクションなどの問題にも対策を考慮する必要がある。いずれにしても、再利用造水場から個々の需要家へのパイピング費用がコストに響いているといえよう。

× × ×

下水再生水の用途として考えらるものは、工業用水と雑用水（水洗便所用水、洗車用水、散水、消防用水）が主なものだが、その他レクリエーション用水、灌漑用水などに使用される。とくに、新

幹線東京基地では、下水処理場か

中水道水質基準提案値

	基 品	洗 廉	汎用	汎用 持満	散 水	便 所
濁 度(度)	5 以 下	15 以 下	15 以 下	15 以 下	15 以 下	30 以 下
電 密 度(度)	5 以 下	10 以 下	10 以 下	10 以 下	10 以 下	50 以 下
pH	5.8~8.6	5.8~8.6	5.8~8.6	5.8~8.6	5.8~8.6	5.8~8.6
鉄 留 残 量(ppm)	300 以 下	300 以 下	500 以 下	500 以 下	500 以 下	500 以 下
残 留 物 (ppm)	0.2 以 上	0.2 以 上	0.25 以 上	0.25 以 上	—	—
残 イオン 有効活性度(ppm)	0.5 以 下	0.5 以 下	1.0 以 下	1.0 以 下	2.0 以 下	—
氯 留 物 (ppm)	500 以 下	500 以 下	500 以 下	500 以 下	1,000 以 下	1,000 以 下
鉛 (ppm)	0.3 以 下	0.3 以 下	0.3 以 下	0.3 以 下	0.5 以 下	0.5 以 下
マ ル ガ シ(ppm)	0.3 以 下	8.3 以 下	0.3 以 下	0.3 以 下	0.5 以 下	—
KMnO ₄ 消 費 量(ppm)	20 以 下	30 以 下	40 以 下	40 以 下	—	—
一 次 種 汚 水 (ppm)	100 以 下	100 以 下	—	—	—	—
大 量 汚 水 (ppm)	—	—	—	—	—	—
BOD (ppm)	—	—	—	—	—	—
S S (ppm)	—	—	—	—	—	—
アシモニア性窒素(ppm)	—	—	—	—	—	—
Cl ⁻ (ppm)	—	—	—	—	—	—

ら特別配管して二次処理水を導入し、ここで塩素処理、砂濾過した後、新幹線車両の洗車用に利用している。再生水の用途を風呂や洗濯にまで広げると、高度処理が必要となり公衆衛生についても検討が必要となる。

再生利用の方法には、下水の二次処理水を直接再生利用する方法と、下水二次処理水を一度河川に放流し、下流でこれを取水して利用する間接再生利用法がある。

直接式には、広域型、地区型、個別型循環方式といった三方式があ

る。再生処理、二重配管によるコスト、及び衛生上の問題がある。コストの点からみると、広域循環方式が工業用水道を利用するので有利であろう。

このように、上水道と下水道の循環方式が工業用水道を利用するものと、「中水道」とわが国では名付けている。問題はこの水質基準をどのあたりまで確保するかといった点であり、中水道調査を行った住宅公団の提案した基準値を別表に掲げる。

ポエム・ド・コウベ

構成・絵

早川

良雄

野火

三浦 照子

闇のなかに はしるものがある
あれは なんの炎

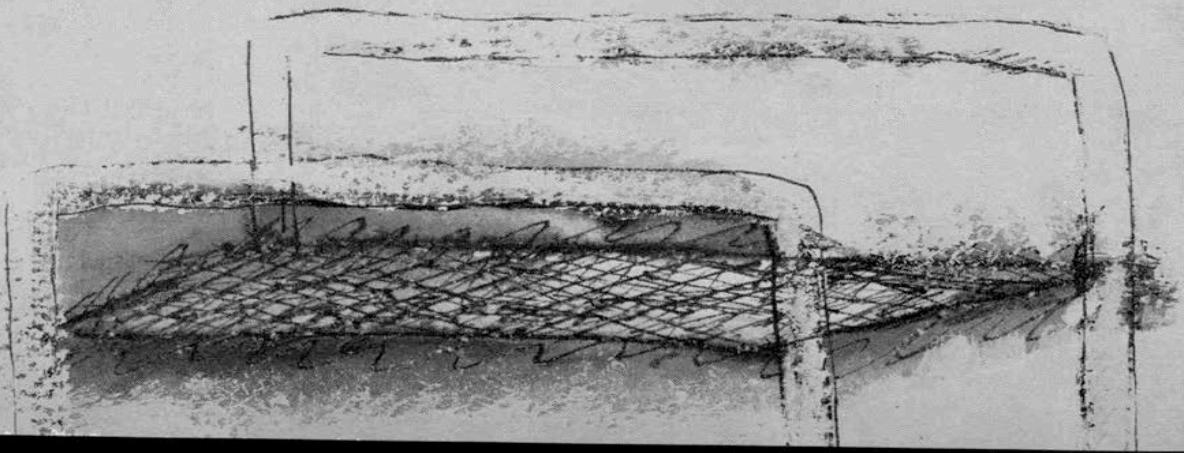
かわしたよるの重みに目醒めて
うつつのにくの想いをさがせば

わがままな夢のように

時わかたぬ 幻の腕で
妖氣のように抱きしめてくる

やさしいときを残しておいてね
想いを紡ぐ 胸のうえに

よるを焼く 野火の
まだ消え去らぬ闇のなかに



作品

江頭

越子

あなたの染めた

織つた

縫つた

ものの前でたじろいでいます

一刷毛

一幾

一針

のくり返しきり返し

思いと

工夫と

時を込めて

根気よく作りあげたもの

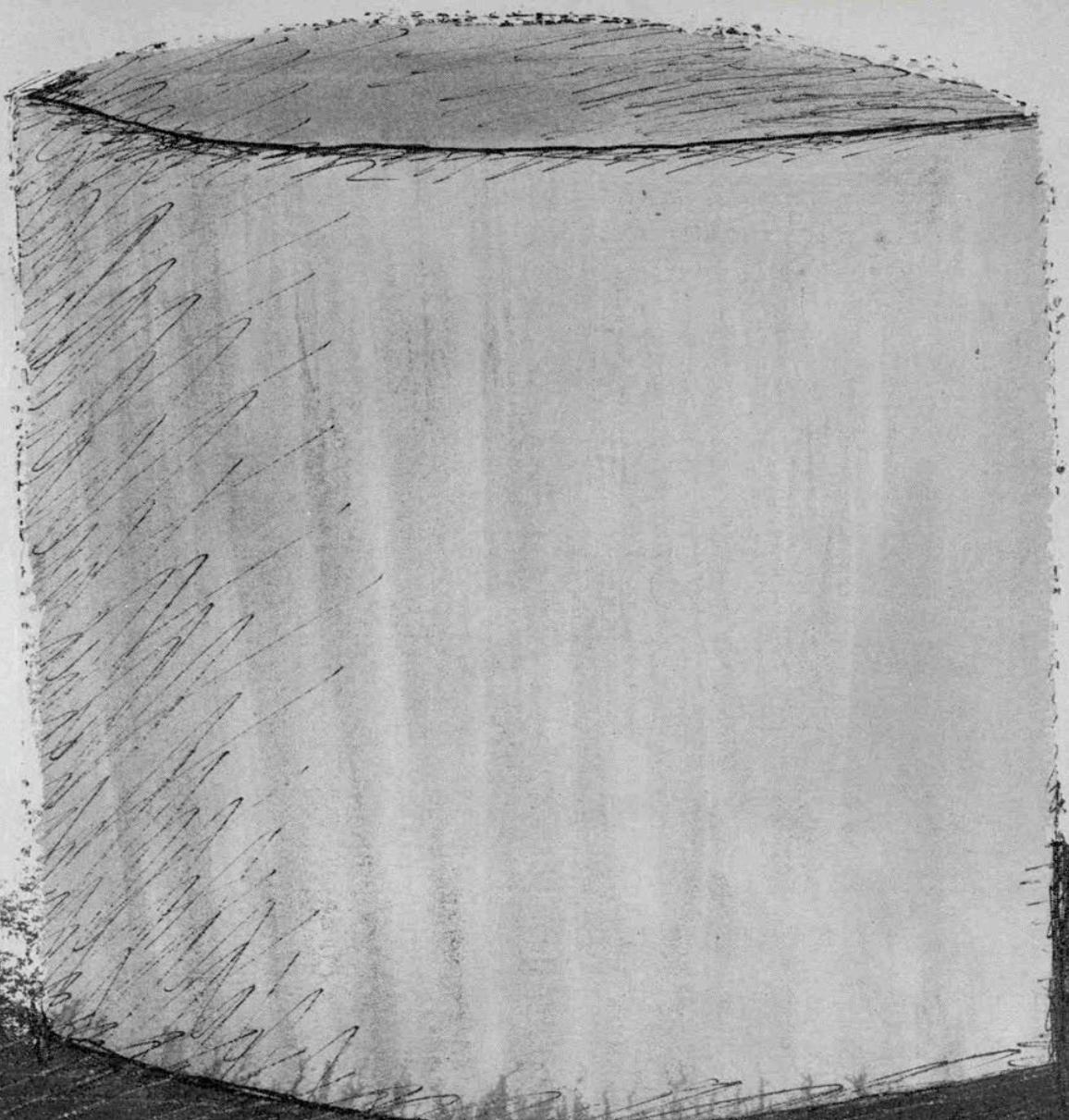
あなたの声のない言葉がふさがつて

ハサミが入らない

誰にも出来て出来得ない

積み重ねのすこさ

それだけであなたはそこに在る



ひとに

安永 稔和

雨あがりの水たまりをのぞきこむと
小さな空があちらからのぞいていて
すげない顔でのぞいていて。

となりの水たまりをのぞいていて

やつぱり小さな空がのぞいていて
水たまりの数だけ小さな丸い空が光っていて

そしらぬ顔で光っていて。
空おそろしいといおうか

空々しいといおうか
それはもう。

●
雨あがりの水たまりをのぞきこむと
あなたがあちらからのぞいている。
ぼくがあわててあらぬこと口走ると
あなたは手を叩いてよろこんで
あつというまにぼくを走り抜ける。
あわてて一步踏み出すと

水がはねて
鳥が飛んで

靴が濡れて

あなたはもう。

